第３回　新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会

日時：平成 30 年８月２２日（水）15：00～
場所：神戸市役所４号館１階　本部員会議室

議　事　次　第

１．開　会

２．検討委員会（委員の紹介）

「新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会　委員名簿」　（資料１）
「第３回　新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会　座席表」　（資料２）

３．報告等

「第２回ワーキングについて」　（資料３）
「意見募集の結果について」　（資料４）
「利用団体ヒアリングの結果について」　（資料５）

４．議　事

基本計画（素案）について
（資料６）

５．その他

６．閉会

資料１

新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会委員

（１）整備基本計画検討委員会

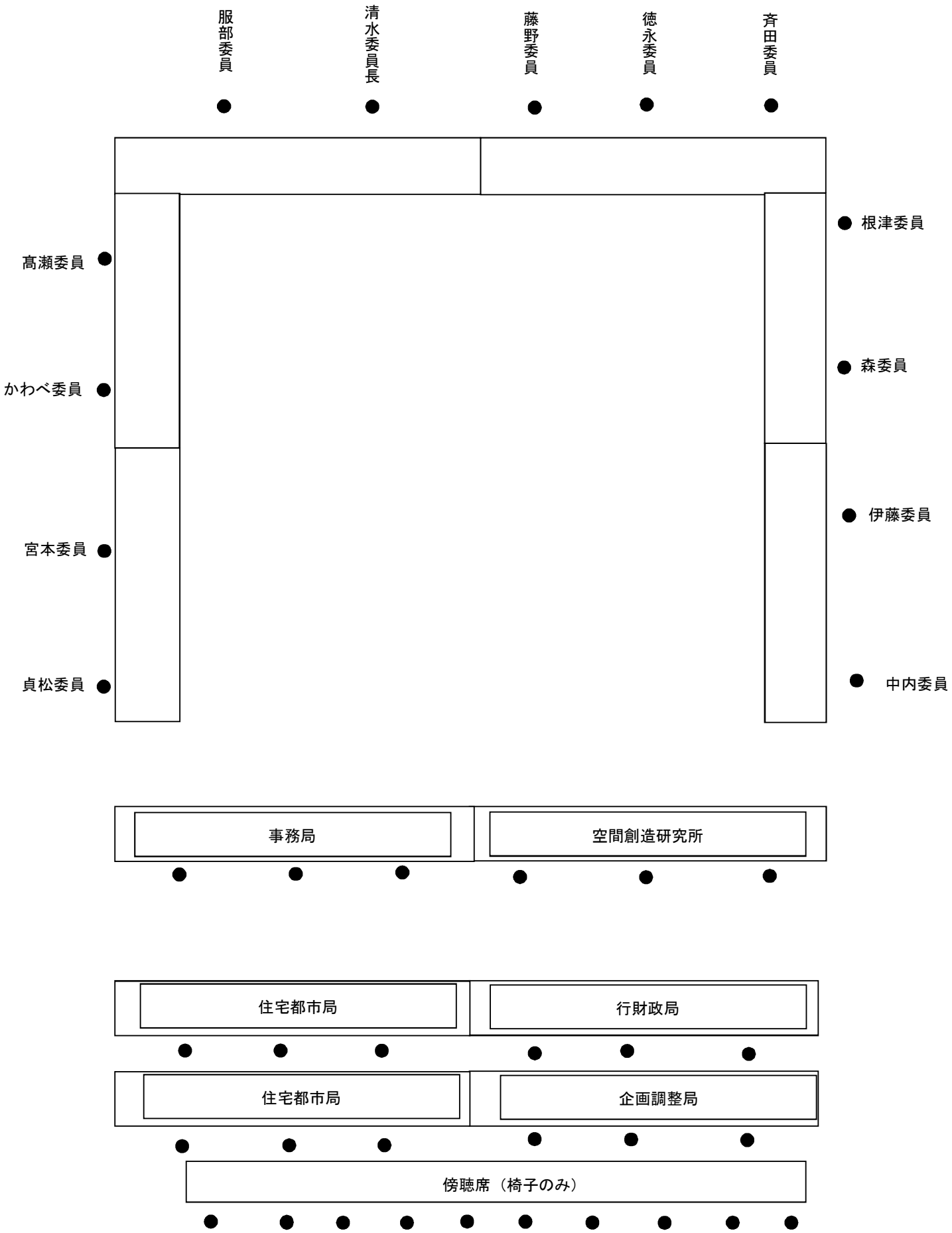
	委員	所属・役職	備考
芸術家・芸術文化団体関係者	貞松　正一郎	（一社）貞松・浜田バレエ団 理事・芸術監督	洋舞分野 日本バレエ団連盟理事
	服部　孝司	神戸市民文化振興財団理事長	現神戸文化ホール指定管理者 神戸市室内合奏団、神戸市混声合唱団
	宮本　慶子	兵庫県音楽活動推進会議代表 神戸マリンバソサエティ主宰	器楽(洋楽・クラシック)分野 神戸芸術文化会議舞台芸術部会長
	森　もりこ	劇団自由人会代表 兵庫県劇団協議会代表	演劇分野 神戸文化ホール検討会議メンバー
学識経験者等	斉田　好男	神戸大学名誉教授 全日本合唱連盟常務理事	指揮、オペラ・管弦楽・吹奏楽分野
	清水　裕之	名古屋大学名誉教授 文化経済学会元理事長	ホール空間計画分野
	徳永　高志	アート NPO カコア理事長 慶應大学文学研究科非常勤講師	ホール運営分野 H28 年度文化ホールあり方検討外部委員
	根津　昌彦	（合）ゼンクリエイト代表 兵庫県合唱連盟理事	まちづくり・賑わい分野 三宮中央通りまちづくり協議会コンサルタント 三宮クロススクエア WS ファシリテータ
	藤野　一夫	神戸大学大学院 国際文化学研究科教授	文化政策分野
経済界	伊藤　紀美子	田嶋㈱ 代表取締役社長	神戸商工会議所副会頭
	中内　仁	㈱神戸ポートピアホテル 代表取締役社長	経済同友会副代表幹事 MICE 担当
議会	髙瀬　勝也	神戸市会議員	文教こども委員会委員長
	かわべ　宣宏	神戸市会議員	文教こども委員会副委員長

（２）テクニカルアドバイザー

豊田　泰久（音響設計家、㈱永田音響設計ロサンゼルス事務所・パリ事務所代表）

資料２

第３回　新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会　座席表



資料３

第２回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会 ワーキング
議事要旨

日時：平成 30 年 8 月 8 日（水曜） ９：００～１１：３０
場所：市役所３号館交通局大会議室

議事内容

施設の配置について

- 練習室機能は、2 号館に整備する中ホールに、ある程度集約することが望ましいのではないかと考えている。
- ホールで催しが行われていない時にも練習室は利用される。にぎわいを創り出していくには、練習室機能や情報センターが重要となる。建物の外からでも人の流れが見えるように、練習室を表側に整備することで、にぎわいづくりに寄与していくのではないか。
- バスターミナル側にも練習室がないと、利便性が懸念される。現状、練習室は稼動率も高く、全体的に不足している状況である。
- 混声合唱団、室内管弦楽団の練習・活動拠点となる専用の場所は必要かと思う。それをどこに設置するかは検討の必要がある。
- 混声合唱団と室内管弦楽団という 2 つの団体がある。(オーケストラと書かれているが)どちらかに特定した書き方ではなく、両方が共存できる場所とした方が良い。
  まずは２つの団体が「フランチャイズ」としてどのような活動をするのかを決めていかないと検討ができない。
- 2 つの団体が、今後どのような事業を展開して、年間どのくらいの活動を行うかを考えないと、利用ルールなどの検討は行えない。
- バスターミナルにどの程度搬入動線を確保できるのか。ホール運営上、非常に重要。
  一般的には、①大ホール搬入には大型（11ｔ）トラック 2 台、中型トラック 1 台、②中ホールには大型トラック 1 台と中型トラック 1 台、③小ホールには小型トラック 2 台は最低限必要になる。
- 駅からホールへの道のりが重要だと思う。周辺環境と合わせて検討せねばならないが、例えば、ストリートミュージシャンがパフォーマンスできる場所などがあると、人も集まって来るし、劇場もその場所を活用した事業を考えて行けるのではないか。クロススクエアをそのような場所として活用できるのではないか。

客席数について

- 中央区の新たな文化施設のホールの客席について、「500～700 席」としていたが、中央区総合庁舎の基本計画の中で「500 席程度」と表記しているため、整合性を取るために「500 程度」と書いている。
- 中央区の新たな文化施設のホールは多目的といっているが、現在では「多目的ホール」といっても、バトンの数や音響反射板の格納方法も含め、フライタワーの高さを十分に取ることができれば、かなり演劇に向いたホールになるだろう。演劇専用ホールと多目的ホールの大きな違いは、音響反射板を設置するかしないかである。音響反射板を設置しなかった場合、音楽利用に不向きになり、稼動率の点から考えても望ましくない。
- 今は 100 席～150 席程度の小規模なホールの需要がとても多い。大練習室を小規模な公演やワークショップなどの事業をする場としても活用していくのがよい。

事業について

- これから 5 年くらいの、ホール開館後に向けたアクティビティプランを考え、どのような活動をしていくかを示したほうがよい。本来であればハードよりも先にソフトの検討が行われるが、本計画はハードが先行しているため、まだできていない。来年度以降、詳細に検討していくべき。
- 現在、室内管弦楽団、混声合唱団は団員と年間出演契約をしているが、フランチャイズ化などをするならば雇用形態から見直さなければならない可能性がある。
- 低価格でかなり質の高いコンサートを提供しているオーケストラも複数ある。室内管弦楽団がそういったところと競合していくためには、かなり戦略を練らねばならない。
- 室内管弦楽団、混声合唱団は、外部資金などを活用しながら運営しているのが現状。雇用形態や経費を考えながら検討しなければならない。
- 音楽ホールは室内管弦楽団、混声合唱団だけでなく、大阪や京都でも公演を行う著名な団体にも利用してもらえるようなホールにし、市民に鑑賞機会を提供したいと考えている。その中で室内管弦楽団、混声合唱団が活動できる部分を作っていきたい。

基本計画のとりまとめについて

- 基本計画のとりまとめは、「絶対に必要なもの」と「プラスアルファーであったらよいもの」を分けたほうがよい。重要度を「重・中・軽」など 3 段階程度にわけ、整理していくとよいのではないか。
- 神戸市として、これから 30 年、40 年先に何をしていくかの話を全くしていない。例えば、これからは映像技術がもっと発展していくことが考えられる。音楽ホールに映像設備（音楽ホール全体に映像を移せるようなもの）を持たせるか持たせないかなどは、この段階で議論をしておく必要がある。

- 技術は日進月歩で進化しており、すでに 3 年前に最新だったものは古い設備になってしまっている。5 年、10 年で見直せる、更新性を持たせた施設であってほしい。
- 神戸市の文化を掘り起こして伝えていくという部分が少ない。例えば、狂言で初の人間国宝となった善竹彌五郎氏などがいる。しかし神戸には能楽堂は 2 つしかなく、それも良い機能ではない。特出ししていきたいのは能・狂言だが、以前に申し上げた農村歌舞伎のことも含め、盛り込まなくていいのか。こういったものを伝えていく役割を担わないと、何十年後には誰も知らないということが起こり得る。
- 専用の能舞台を造らなくても、今は組立式の能舞台もあるので、能狂言や農村歌舞伎など伝統芸能の伝承を検討してはどうか。

ソフト面（事業・運営等）について

- ハードで勝負できるのは開館から 5 年間程度。それから先はソフトで勝負することになる。「神戸らしい」ものをきちんと創らなければならない。
- ホールの運営組織の中で、官民一体となり、ホールを中心にまち全体をプロデュースする仕組みができないか。民間からもプロデュース能力のある人材を集め、アーティストと話し、売り出し方を考えていく。これまでは民間のプロモーターがやってきたことだが、これからはホールがそういう機能を持たないといけないのではないか。
- 未来に向けて神戸のエッセンスをどう伝えていくか。それにはソフトが重要になる。いまは各団体が個々に活動しているので、横串を通すようなことができればと思う。
- ホールが単独であるのではなく、既存の民間施設とも連携して、まちを巻き込んでいけるようにしていければ思う。
- 愛知県武豊町民会館では行政と NPO が一緒にホールを運営している。そのようなハイブリッドな仕組みを検討していただきたい。
- いろいろな人が集まり、雑談ができるような「サロン」のようなものがあるとよいのではないか。そういった拠点が新しいホールにあるのは良いことだと思う。
- サロンにこだわらず、このような会議を喫茶店などのまちなかで行うことで、何か新しいことが動き始めているという様子を見せていくのも効果的ではないか。
- 開館を迎えるまでに、現在の文化ホールを使って、まずはみんなで作り上げていく事業を年 1～2 本実施することが良いと思う。200～300 万円程度の予算で良いので、色々な人たちとのコラボレーションができればと思う。
- 貸館時のテクニカルサポートをどうするかも課題である。貸館率が高いホールは丁寧に利用者と劇場側の打ち合わせを行う。指定管理者制度の中で、テクニカルサポートスタッフは切り捨てられているが、丁寧にすることで満足度が上がり、利用率の上昇にもなる。神戸市はこれまでそのような対策をしなくとも稼動率が高かったので、おろそかになっている部分だと思う。
- 中央区の新たな文化施設のホールと大ホールの連携は、言葉で言うほど簡単ではない。

新しくホールができてから連携するのではなく、今から検討を行っていくべき。

- 整備推進体制の部分で、新しいホールの中でソフトの核となるような体制をつくっていくこと、中核的な人材を早期に雇用することなど、意見として盛り込めればと思う。
- 「自主事業」「貸館」だけでなく、その中間となる「共催」のあり方を考えて行ければと思う。
- 大ホールで本格的なオペラ公演を行うと、億単位での予算がかかるだろう。ホールとして何を目指すかによって事業規模は全く変わってくる。
- 事業費については、まずは全国ホールの事業費を調べることが必要ではないか。

その他

- 基本計画単体では、まちや周辺が今後どうなっていくのかがわからない。冒頭か、資料編に図を入れられると良いと思う。
- 次回の委員会では、このホールが何を目指していくのか、またディレクションのトップ（芸術監督）の必要性などについても議論ができればと思う。

以上

資料４

市民意見募集結果

幅広く市民の意見を聴取するため、第２回　新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会後に、当日の資料や議事要旨を市ホームページや各区役所、区民センター等で閲覧できるようにして、市民からの意見を募集しました。

また、意見募集を行う旨を市ホームページや広報紙７月号に掲載して周知を図りました。

募集期間	平成 30 年 7 月 23 日（月曜）～8 月 10 日（金曜）
提出方法	郵送、FAX、電子メールまたは持参
意見提出数	30 通

（１） 機能・仕様について

（主な意見）

・「文化」の拠点なので、シドニーのオペラハウスのように その街の象徴的な存在であってもらいたいと考えます。

・大阪中之島のフェスティバルホールに負けないような施設にして欲しい。国内外の大きなイベントに対応できるようなホールになることを期待します。

・ホールの内外観とも文化ホールらしく外に開け、公園を配置するなど外に向って「見える化」する方向も賛成です。

・雨天でも傘を差さずに入場できるような場所、整備をすること。

・大ホール、中央区の新しいホール、中ホール含め、あらゆるジャンル、分野で広く多くの世代の人が活用できるような、多目的ホールが良いように思われます。

・「音楽のまち神戸」を世界にアピールするために、音楽ホールが必要だと考えます。

・市が持っている神戸市混声合唱団、神戸市室内管弦楽団の本拠地として、シンボルとなるようなホールが必要であると考えます。

・新文化ホールを移転新築するにしても、是非、観客数（現在の文化ホール中と同程度）・搬入搬出や音響その他様々な設備などで演劇にふさわしいホール建設を要望します。

・市内には「松方ホール」や「芸術文化センター」など、音楽用のホールはあります。これ以上、音楽専用のホールが必要なのでしょうか？一方、演劇を中心とした舞台芸術のできるホールは小さい小屋しかありません（新神戸オリエンタル劇場はあるが、今年いっぱいで一旦閉鎖）。中ホール規模の「舞台芸術」専用のホールも必要ではないでしょうか。

〇舞台・設備〇

・舞台空間が奈落も含めて今の中ホール以上の空間と設備があること。

・出演者の多い集団演技の芝居もあるので、楽屋の広さ、設備も充実したものが欲しい。

・楽屋が舞台からできるだけ近くに、トイレも衣装のまま使用できる広さが必要です。
・楽屋や搬入入り口へのアクセスがトラックや大型バスが数台駐車でき、アクセス道路も狭くないこと。
・バスターミナルの上ではなく、搬入・搬出が容易な地上階に舞台を設け、できれば、能登演劇堂のように野外空間との連携が取れるような舞台にしてほしい。
・ホールに必要不可欠である貸し練習室を充実してほしいと考えます。建物内に大小さまざまな練習室を作っていただきたいと思います。
・リハーサル室を、新大ホール、新中ホールともに設けるようにお願いいたします。この大きさは、それぞれの舞台と同じ大きさでお願いします。また、このリハーサル室は、ホール使用者が使用しないときは、外部に貸し出していただきたいと思います。
・ホールに良いピアノが必要だと考えます。良いピアノを置けば、良い演奏家も集まり、活性化に繋がると考えます。そのためにも、ピアノの管理の専門家も置いていただきたいと思います。

〇音響〇

・静かな環境下で、セリフが聞き取りやすい音響環境、たとえば大阪新歌舞伎座のように残響音を 0.8 程度にして欲しい。

〇席数〇

・席数は、現在の大倉山にある神戸文化ホールと同じレベル（大ホール：2000 席以上、中ホール 900 席）を希望します。舞台の大きさも現在と同じ規模でお願いします。
・県庁所在地としてふさわしい、特に大ホールについては、音楽コンクールについて兵庫県大会（予選）が行えるようなものを神戸で開催できるよう誘致できるホールにしてほしい。2,100 席は最低必要です。
・客席は現状での採算性を維持して行く上で現在の 800 席程度、同時に自由な舞台（アリーナ形式）が可能な 300 席程度の小劇場を併設して欲しい。
・2 階席も設けて客席の奥行きは出来るだけ短くし、舞台がよく見えるようにする。客席の数は 1、2 階合わせて 700 程度。
・質の高い音楽専用の 400～500 席ホールを望みます。
・500 人以下のホールで、それより少ないホールでも、例えば舞台を低くして、いっそのことフラットな床面でサロンコンサートもできるような、他府県の友人からも憧れの目でたずねられる旧居留地の一角に自慢できるような素敵なホールができれば良いと思います。
・LIVE でないと伝わらないものは多くあり、【生】に触れる機会が増える事により 市民の文化度が向上します。その為には 大ホール（1500 席以上）ではなく、複数の小ホール（200 席以下）が効果的だと思います。ジャンルも様々なものが混ざった方が面白くなると思います。
・1000 人以上のホールを市民が借りて利用する頻度は高くないと思います。

〇料金〇

・神戸市民あるいは神戸出身（市内の大学、学校の卒業生・在学生）の利用料金は一般に比べて

安く、入場料（鑑賞料）も市内在住、在勤、在校生はそれ以外の方の料金より、安くしてください。

・使用料について、現在のままを希望します。

〇運営〇

・多様な催しに対応するため３ホール一体で運営する部署が不可欠です。

・音楽・演劇を子供のコミュニケーション教育の一環としても位置付けて欲しいと思います。

・本部は１カ所だとしても、物理的には事務所は２カ所以上に分散されると思います。タイムラグ等が発生しないような運営、万が一の時の責任の所在を明確にしてください。

（２） その他について

（主な意見）

・ホールについては、神戸（三宮）の特性からいって、JR や私鉄、地下鉄、バスのすべてにアクセスがよい三宮駅から近いこと。

・三宮駅前という素晴らしい立地にホールを整備することは大変喜ばしいことだと思います。

・今回整備計画で三宮バスターミナルと市役所２号館跡に移ってくる、というのうは便利で助かります。

・中ホール建設が現在の市役所近辺になるようであれば、大ホールなども含めて三宮地域を巻き込んだ規模になることで、宿泊、飲食など、経済効果・街の活性化は大きいと思います。

・大、中と小が別の場所になると迷う人がいるので一か所にまとめるか、名称を変えるべき。

・現大倉山での建替えは難しいのでしょうか？新開地に「喜楽館」ができ、大倉山に大、中のホール、図書館、と文化ゾーンの流れができ神戸らしいように思います。

・文化は１ヵ所に固めるのではなく、各地域の文化を大切に育てていってほしいと思います。

・神戸文化ホールは 40 年以上、市民や多くの人が利用してきました。不便を感じないと言う意見が 8 割を超えています。現在の場所での改修を含めて再度、計画し直してください。

・神戸文化ホールの整備を含む「三宮再整備」計画には反対。

・どうしても中央の新しいホールが必要だということであれば、市役所 2 号館跡に音楽専用ホールと併設するとか、元町駅・神戸駅近辺などに新たに建設するとかは無理なのでしょうか。

・中央区の新しいホールに現・文化ホール（中）の機能を持たせるのは難しいのではないでしょうか。集会所、多目的ホールとして、区民の憩いの場所にすべきです。

・「日本文化鑑賞」をツアーに組み込んでもらうことや、ロビーやホワイエを使ったイベントの実施などを、インバウンドの面から検討してはどうか。

・ホールを何に使うのか、ホールで何をし、何を実現しようとするのか、を明確にすることが必要です。

資料５

新・神戸文化ホール基本計画策定に向けた団体ヒアリング　概要

日 時 ・ 場 所：2018 年 7 月 5 日　神戸市文化ホール会議室
※ヒアリングを行えなかった団体からはヒアリングシートによるアンケートでの意見聴取を実施
対 象 団 体：10 団体　（※ヒアリングシートによるアンケートの団体も含む）
概　　要：新・神戸文化ホールの基本計画策定に向けてヒアリングを実施。主に「現在の活動内容」「現在使用している施設の良い点・悪い点」「新しい文化ホールに期待する設備（ハード面）役割・事業・運営（ソフト面）」などについて意見を伺った。
ヒアリング団体：市民合唱団、障害者福祉財団、舞踊団体、市民交響楽団、エンターテイメントスクール

◎は 3 団体以上の同意見があった項目　　〇は 2 団体以上の同意見があった項目

【ホールについて】
◎　大ホールは 1500 席では小さい。2000 席規模が必要。
・　ホールは 1500 席あれば問題なく利用できる。

【練習室について】
◎　練習室は複数整備されていると良い。(30 名規模、50 人規模、100 人規模など団体により希望あり)
◎　市内の施設を含め、練習室が足りずに確保に苦労している。
・　日常の練習で借りることはないが、舞台面の同じ広さの練習室があれば本番前の練習に利用したい。
・　練習室で小規模な発表会が行えるというのは賛成である。

【施設計画について】
（動線について）
◎　エレベーター、エスカレーターをしっかりと整備してほしい。
〇　客席の歩きやすさに配慮してほしい（スロープなど）。場所により高さやステップの広さが変わると歩きにくいので、階段の幅と高さを統一してほしい。また、前後のゆとりを持たせてほしい。
・　視覚障害者に危なくない動線（ホールまでの距離や勾配、終演後の混雑への配慮など）を整備してほしい。
・　最寄り駅の地下と直結させてほしい。
・　皆が安全に来られる場所であることが必要。例えば近くのロータリーに一時駐車して車椅子の乗降ができるスペースや、車椅子専用の駐車場の設置などが、当たり前のこととして配慮されていると良い。

（舞台・舞台裏関係）
◎　舞台、楽屋、リハーサル室（控室として利用）が一体的に利用できるよう動線に配慮してほしい。
◎　軽食が販売している程度の、カフェテリアなどの飲食スペースが必要。（レストランでなくともよい）
・　打ち上げなどにも利用できるレストラン等を整備してほしい。
・　花道、定式幕、緞帳、所作台など舞踊に必要な設備を備えてほしい。
・　大きな楽器だけでも預けられる楽器庫があるとよい。
・　ホールの備品として大型の楽器（ティンパニー等）があれば利用したいと思う。
・　安全に利用できるホールにしてほしい。例えば、2 階席、3 階席の前方が怖いホールがある。

（アメニティ）
〇　女性用のトイレが足りなくなる。配慮してほしい。
・　盲導犬のトイレ（外部にトイレができる場所を設置するなど）を整備してほしい。

【利用料金について】
◎　新しいホールを利用するかどうかは、利用料金がいくらになるかによる。
・　利用料金が同程度であれば国際会館を利用するだろう。神戸市内であれば国際会館は格式が上というイメージがある。
・　障害者団体として市に登録しているので減免になるのは非常に大きい。

【運営ルールについて】
・　予約時期は 1 年半前頃からがよい。
・　予約時期は 1 年前で問題ない。あまり早すぎても予定が立てづらいのでちょうどよい。
・　託児室が必要だと思う。保育士と連携し、託児の手配ができるようになっているとよい。
・　劇場内でご飯を食べられたらよい。せめて飲み物程度は許可してほしい。

【その他】
◎　新たなホールで色々なホールの情報を集約し、提供できるとよい。兵庫県立芸術文化センターなども含めた近隣施設のチケットが一括して買えるプレイガイドがあるとよい。
〇　移転先について、バスや搬入トラックの出入りがしやすいこと。
・　ホールの自主事業は、今の文化ホール程度が良いと思う。あまり自主事業が多いと貸館ができなくなる。
・　新しいホールはどういった特色を出していくのか。コンセプトづくりが重要になる。
・　気軽に音楽に触れられるようなまちになるとよい。
・　自分たちの活動を知ってもらえる場があると良いと思う。今は他団体との繋がりがない。たとえばホールと市民団体が何かを一緒にしたり、市民が出演できるイベントをホールが主催したりなどがあるとよい。
・　ホールの場所が 2 ヶ所になるとのことだが、近くにあり、一体的な利用ができるならばよいかもしれない。合唱祭などで複数会場をはしごして見られるのは良いと思う。

資料６

新・神戸文化ホール整備基本計画
（素案）

平成３０年８月
神戸市

目　次

１．新・神戸文化ホールの整備方針
（１） 基本計画の位置付け
（２） 新・神戸文化ホールが目指す機能・役割

２．事業の考え方
（１） 事業展開の基本方針
（２） 事業内容

３．管理運営の考え方
（１） 管理運営の基本方針
（２） 組織体制の基本方針
（３） 収支計画の考え方

４．施設計画
（１） 基本性能の整理
（２） 主たる機能諸室の検討・整理
（３） 留意事項

５．整備手法及び整備予定地

６．整備スケジュール（予定）

７．今後の検討課題

１．新・神戸文化ホールの整備方針

（１）　基本計画の位置付け

①基本計画の位置付け

神戸文化ホールは、神戸市の芸術文化の基幹ホールとして、昭和 48 年に開館（昭和 47 年竣工）し、今日に至るまで、市民をはじめとする多くの方に利用されている施設です。

しかし、施設や設備の老朽化が進み、神戸市の芸術文化を支える基幹ホールと呼ぶのに相応しいとは言えない状況となっております。

そのため、将来を見据えた施設の見直しを図るため、平成 28 年度に神戸文化ホールのあり方について検討を行い、平成 29 年 3 月に「神戸文化ホールのあり方検討のまとめ」として取りまとめています。

そのまとめの中では、現・神戸文化ホールが抱える課題を解消し、これからの基幹ホールとして期待される役割を果たすためには、制約の大きい大規模改修（長寿命化）ではなく、建替を前提に検討する必要性があるとしています。

神戸文化ホールを、単に建物を建替えるだけでなく、今後のまちづくりに大きく貢献する芸術文化の拠点として、新たな神戸文化ホールを整備することが望まれています。

この新・神戸文化ホール整備基本計画（以下、「基本計画」という。）は、新たな神戸文化ホールの整備における方針を示すものです。

②関連計画

■　三宮周辺地区の『再整備基本構想』（平成 27 年 9 月）

神戸の玄関口である三宮周辺地区については、民間活力の導入を図りながら、魅力的で風格ある都市空間を実現すべく、事業化を見据えたより具体的な検討を行い、三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定しています。

基本構想では、地域全体に求められる項目として、『都市間競争において、選ばれるための魅力・活力の創造』、『地区内及び周辺地域への回遊性向上』、『商業や業務、文化、交流機能の集積と更新』などが挙げられています。

その中で「美しき港町・神戸の玄関口“三宮”」として、まちづくりの５つの方針を定めています。

１	歩くことが楽しく巡りたくなるまちへ
２	誰にでもわかりやすい交通結節点へ
３	いつ来てもときめく出会いと発見を
４	人を惹きつけ心に残るまちへ
５	地域がまちを成長させる

新・神戸文化ホールは、このなかで定義されている「えき」と「まち」をつなぐ空間である「えき≈まち空間」に整備を予定しており、『再整備基本構想』における方向性に十分に配慮した計画とする必要があります。

新・神戸文化ホールは、今後の神戸市の目指す都市像を実現させる施設として都市政策の中に位置付け、計画していくことが求められます。

（２）　新・神戸文化ホールが目指す機能・役割

前述の「神戸文化ホールのあり方検討のまとめ」において、公の施設である新・神戸文化ホールが目指す機能・役割は、2012 年（平成 24 年）に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（以下、「劇場法」という。)」も踏まえて、以下のように整理されています。

① 市民の誇りとなる、神戸らしい芸術文化の発信
② 市民主体の芸術文化活動の促進、更なる高度化の支援
③ 芸術文化を担う創造的人材の育成
④ 多様な人材が交流し、まちのにぎわいを生み出す空間と経済波及効果の創出
⑤ 神戸の個性を発揮することによる「選ばれるまち」の実現
⑥ 芸術文化の普及啓発拠点として誰もが芸術文化に触れる機会を提供

新・神戸文化ホールのミッション

新・神戸文化ホールは、社会包摂の意識を持つ様々な創意工夫により、市民の文化芸術に対するアクセスを容易にし、市民に質の高い舞台芸術作品やその他の多彩な文化芸術体験活動を提供し、また、その施設の賃貸と、技術ならびに制作的支援をもって市民の文化芸術活動を促進すると同時に、分散複合型施設の特色を生かし、まちづくり活動と一体となって三宮クロススクエアの活性化を図り、さらに、官民学術機関一体となった先端的な文化芸術の制作・支援システムを構築することで、過去から未来に向けた高い水準の文化芸術創造の展開を推進し、また、分野を超えた新しい文化芸術の創造、交流を促進する、国際都市神戸にふさわしい文化芸術インフラストラクチャー（文化社会基盤）の中核を担う。

２．事業の考え方

（１）　事業展開の基本方針

新・神戸文化ホールが目指す役割を実現させるために、積極的な事業及び活動を実践していくことが求められます。

特に、前述の新神戸文化ホールが目指す機能・役割では、劇場法を踏まえた検討が行われており、その第３条に定義されている事業について十分に考慮したものとします。

【参考】劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

（劇場、音楽堂等の事業）

第３条　劇場、音楽堂等の事業は、おおむね次に掲げるものとする。

１　実演芸術の公演を企画し、又は行うこと。

２　実演芸術の公演又は発表を行う者の利用に供すること。

３　実演芸術に関する普及啓発を行うこと。

４　他の劇場、音楽堂等その他の関係機関等と連携した取組を行うこと。

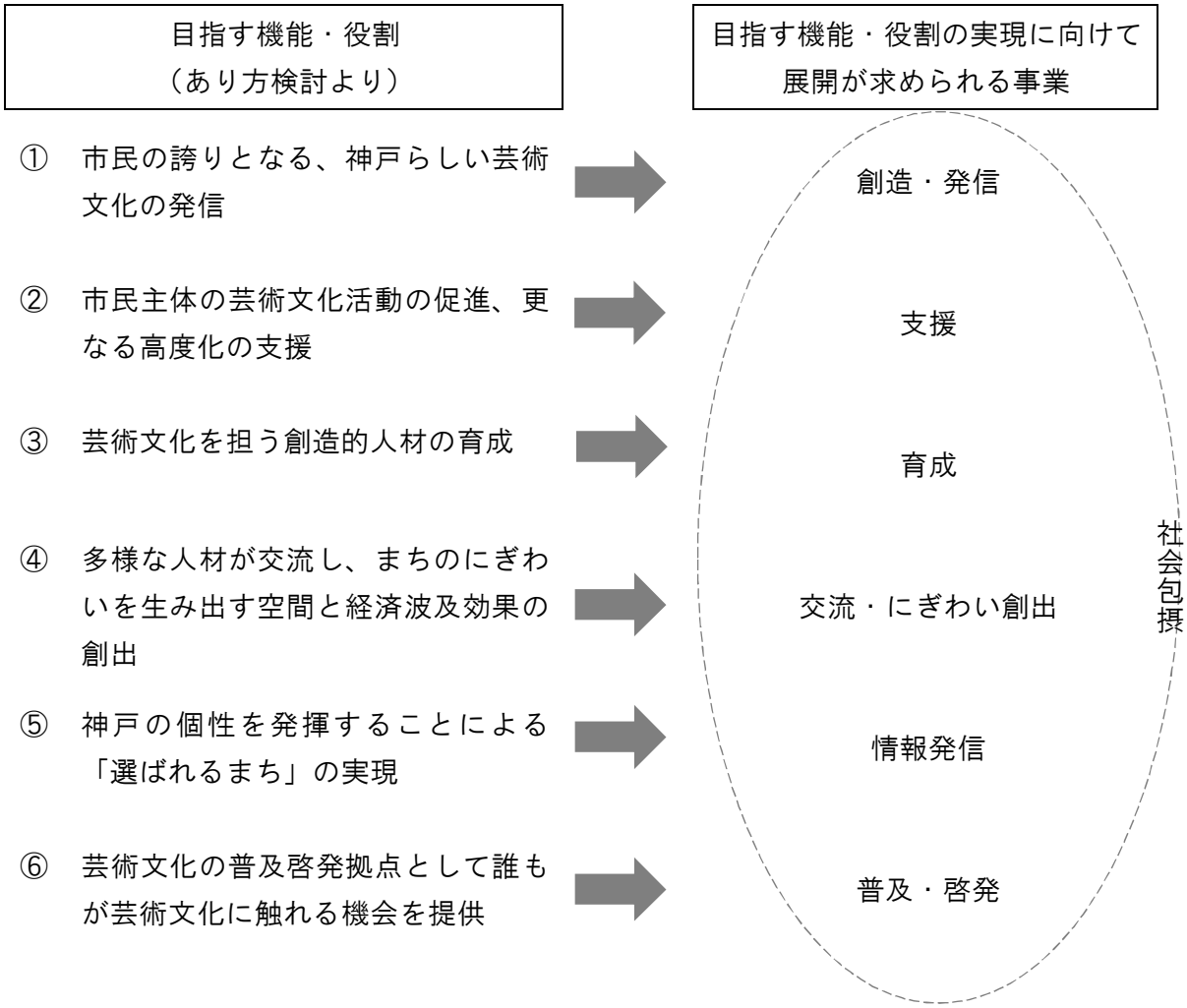
５　実演芸術に係る国際的な交流を行うこと。

６　実演芸術に関する調査研究、資料の収集及び情報の提供を行うこと。

７　前各号に掲げる事業の実施に必要な人材の養成を行うこと。

８　前各号に掲げるもののほか、地域社会の絆の維持及び強化を図るとともに、共生社会の実現に資するための事業を行うこと。

（２）　事業内容



以上を踏まえて「具体的事業展開」の考え方を整理します。

【事業展開の考え方】

創造・発信 【鑑賞】	神戸らしい芸術文化作品の創造と発信を通じて、神戸の魅力を高めていく。 ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団の活動をより広げ、各地での公演を行うなど市外へ発信していく。 ・ 音楽・演劇・舞踊・伝統芸能のみならず、映像・AI 等幅の広い分野の協働・参画による創造的舞台芸術の企画・実施 ・ 神戸の魅力を高める公演の定期的な開催。 ・ 市民への幅広い分野の芸術文化の鑑賞機会の提供。 ・ 特に、文化ホールならではの大型作品等の鑑賞機会の提供。 【事業例】 ・神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団のホール公演

	・神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団の県外公演 ・オペラ、バレエ、ミュージカル等の大型作品公演 ・ジャンルを超えたコラボレーションなどの文化芸術作品創造と県外公演の展開
支援 【施設提供】	市民の芸術文化活動の支援として、場の提供を行い、芸術文化の基幹ホールとして市民の文化活動が促進・発展するための支援を積極的に行っていく。 ・ 市民の芸術文化活動の場（日常/発表）を広く提供し、市民の芸術文化活動の支援を行う。 ・ 施設利用者による鑑賞機会の提供を積極的に支援し、市民の鑑賞機会の充実につなげる。 ・ 次世代を含め芸術文化活動を行う層の支援を行う。 【事業例】 ・施設利用者の公演開催における制作面での支援や広報支援
育成 【育成】	実演家及び様々な専門人材の育成を行い、地域における実演家・専門人材が抱える構造的課題解決を支援し、芸術文化活動の持続可能性を高めていく。 ・ 実演家や芸術文化を取り巻く様々な課題を認識し、その課題を解決できる職能の育成を行う。 ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団の活動を活かした事業の展開なども検討する。 【事業例】 ・神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団メンバーなども含めたプロミュージシャンの演奏家による学生対象のサマークリニック ・定期的な神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団メンバーによるレッスン ・インターンシップの受け入れ ・継続的な専門人材の養成講座
交流・にぎわい創出 【国際交流/連携】	日常的に人が集う仕掛けとしての事業展開、活動がにじみ出るような外部空間を活用した事業展開、周辺地域との連携事業等を展開する。 ・ 三宮周辺地域で行われているイベントなどと連携した事業を展開するほか、貸出がない時のホールホワイエの公開、誰でも利用できる共有ロビーでの事業展開、オープンデイの実施など施設を広く開いていく。 ・ また、諸室を使った事業だけでなく、外部空間を活用した音

	楽や舞台芸術を上演するイベントなども展開していく。 ・ 神戸市の文化の中核拠点として、各区民ホールをはじめとする文化施設、近隣の民間ホールとの連携・協力。 ・ 複合施設内の他機能をはじめとし、地域の商業等と連携した地域の賑わいの創出。 【事業例】 ・こくさいホールをはじめライブハウスなども連携したミュージックフェスタなど、既存インフラを活用した街を一体的に巻き込んだフェスティバルの実施 ・ホールフェスティバル開催 ・マルシェ等の定期的開催 ・若手演奏家による昼間時のミニコンサートの開催 ・地域の祭りでの文化芸術コンテンツの提供
情報発信・調査研究 【情報・調査研究】	活動全体を通じての発信力を強化していく ・ 芸術文化に関する情報の収集と提供を行い、アーカイブとして蓄積していく。 ・ 大学等と連携し、実践的な芸術文化に関する調査研究・技術開発・先端的企画の立案と実施に取り組む。 【事業例】 ・自主事業の映像記録作成と情報コーナーでの一般への共用 ・文化芸術をテーマとした大学との共同研究 ・近隣の文化芸術イベント情報の提供
普及・啓発 【普及】	芸術文化に親しみ楽しむ層を広げていくための事業展開を目指す ・ 気軽に聴きに行けるコンサート、理解を助け深めるための講座などの実施。 ・ ワークショップなど芸術文化の楽しさや素晴らしさを体験できる参加・体験型事業の展開。 ・ 子どもたちに芸術文化の魅力や楽しさを体験する機会を提供する。 ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団による普及活動を検討する。（インリーチ・アウトリーチ） 【事業例】 ・ロビーコンサート、ワンコインコンサート ・学校など教育機関や福祉施設等へのアウトリーチ ・体験型ワークショップの定期的開催

３．管理運営の考え方

（１）　管理運営の基本方針

劇場、音楽堂等施設として高い専門性を持つ施設を、適切にかつ効果的に管理運営を行っていくため、以下の視点を持った管理運営を行います。

- まちづくりの視点

  神戸の象徴となる三宮周辺地域において、駅前の利便性をさらに高め、にぎわいや活力を生み出し「まち」を楽しんでもらう仕掛けの一つとして、積極的に関与していきます。

  さらに、同エリアに立地する神戸国際会館こくさいホール等との役割分担を図りながら、バスターミナルビル内に整備するホールと本庁舎２号館に整備するホールを含めた各ホールが、互いに相乗効果を発揮し、まちのにぎわいにつながるよう運営を行っていきます。

- 複合施設としての視点

  複合施設内に整備する計画であり、それぞれに整備される機能との相乗効果の創出を図ります。また、複合施設であることから、ホールの視認性に配慮した外観デザインが求められるとともに、ホールまで誘因する仕掛けを工夫するなど、アクセシビリティの向上を図ることが必要になります。加えて、他の機能とのセキュリティの考え方や、ホールに必要な動線（来場者、関係者、搬入車両等）の確保など、使いやすいホールとするための十分な検討が必要となります。

- 一体的な運用

  新施設は、現施設と異なりホール機能を分散して整備する計画となっています。それぞれの機能がそれぞれの役割を着実に果たしていくと同時に、一体的な運用を行うことにより神戸市の基幹ホールとしての機能を果たしていきます。

- 長期的な視点

  芸術文化、まちづくり、いずれも短期的に効果が表れるものではないため、継続性をもって計画的に事業や管理運営を行っていく長期的な視点が求められます。また、本計画対象施設の運営は組織内の事業実現に閉じた意識ではなく、神戸の芸術文化の創造的発展に何が不足しているか、どこがボトルネックなのかを常に意識し、実演家、実演家団体、専門人材、行政、研究機関等と連携し、協働する仕組みをリードすることが求められます。また、施設や設備の維持管理等に関しても、長期的に安定して安全に施設を利用してもらえるように、予防保全の考えで計画的に行うことが望まれます。

- 芸術文化を支える専門性としての視点

  神戸市の芸術文化を支える基幹ホールとして、積極的な事業展開、芸術文化活動者への支援、高度な設備等への対応など、それぞれの専門性が求められます。

- 芸術文化の基幹ホールとしての視点

  神戸国際会館こくさいホール、神戸新聞松方ホール、各区民ホールなど市内の他の文化施設との役割分担や協働・連携を図るなど、神戸市の基幹ホールとして芸術文化活動全体を見据えた運営が求められます。

- クリエイティブの視点

  これからの新しい神戸市の芸術文化を生み出していくため、芸術文化の創造活動に柔軟に対応できる管理運営が必要です。インバウンドに対応するためには国際的水準で作品の創造に取り組む姿勢が求められます。

（２）　組織体制の基本方針

新・神戸文化ホールは、神戸市の芸術文化の基幹ホールとして、その機能の最大効果を発揮できる組織体制となるよう計画していきます。

新・神戸文化ホールの運営を担う組織に必要な要件を以下のように整理します。

①　施設運営や事業運営に関する専門性の確保

新・神戸文化ホールは、市の文化振興施策を実現する拠点施設としての施設運営や活動を展開します。

市民の文化芸術活動をサポートするためのさまざまなノウハウを持ち、専門的な見地から支援すること、神戸を発信する事業展開や将来を見据えた育成や普及的活動などを戦略的に展開すること、地域との連携において核となること、経営的な視点を持つこと、など専門性を備えた組織とすることが重要です。

②　安定性や継続性の確保

現在の神戸文化ホールは開館からの長い期間を積み上げ、今に至る評価を得ています。文化は成果が表れるまでには時間がかかるものであり、また地域のにぎわいを生み出していくにも時間がかかります。新しい施設においても、神戸を発信する施設、市民の文化芸術活動の中核施設として、新たに三宮地区に定着していくために、中長期的な取組みを行い、時間をかけて醸成していくことが求められます。その期間、安定的に継続性をもって運営を担うことのできる組織であることが重要です。

③　施設運営や事業運営に求められる柔軟性の確保

文化芸術活動は、決まった形で展開されるものばかりでなく、その時々の状況により柔軟な対応が求められることが多くあります。

また、これからの劇場、音楽堂等は、多様化する市民ニーズに応えることがこれまで以上に求められると考えられ、それらに対応できることも必要となります。

施設全体を総合的に捉えた柔軟な管理運営が実現できる組織が望まれます。

④　公共性の確保

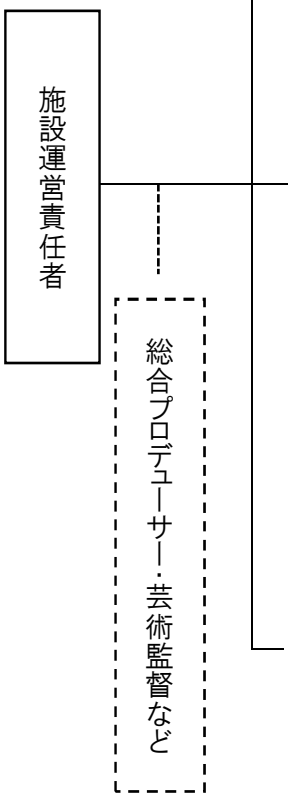
市が整備する公の施設として、利用者や事業への参加者に対して公平性や透明性といった視点を常に持ち、施設や事業の運営にあたることが求められます。

また、現段階で、神戸市の芸術文化活動の中核を担う施設として必要と想定される職能と組織体制を整理します。

組織体制としては、施設の責任者として施設運営責任者を配置し、その下に３部門を置くことを想定します。各部門には責任者を配置し、部門間では相互に連携して施設運営に当たります。

また、必要な配置人員数については今後の検討とします。

【組織体制のイメージ図】



総務部門	総務部門責任者 経理 庶務 施設管理
事業部門	事業部門責任者 企画制作・学芸 　　制作 　　学芸 調査研究・情報 楽団事業 営業・広報 　　営業 　　広報 　　会員組織 施設利用 　　利用係 　　客席案内等 チケットセンター 地域連携
舞台技術部門	舞台技術部門責任者 機構担当 照明担当 音響担当 映像担当 調整・工房等担当

【各部門の業務内容の想定】

■総務部門

総務部門では、経理や人事、また施設維持管理等の庶務的な事務を担います。

【主な業務内容（想定）】

○経理（予算・決算、入出金管理、小口現金の管理等）
○勤怠管理など人事管理も含めた総務業務
○施設維持管理に関する日常的管理及び関係業者との調整（警備、清掃等）
○複合施設の管理組合等との調整業務
○視察等への対応　等

■事業部門

事業部門は、新・神戸文化ホールで展開する自主事業の企画・調整から実施までの業務全般を担います。また、施設提供事業として施設利者に関する業務も、他部門と連携しながら担当します。

まちづくりにおける協働組織等をつなぐ機能として、地域連携のハブ機能を配置し、官民一体となったまちづくりを目指す体制を整えます。

【主な業務内容（想定）】

○年間事業計画の立案
○自主事業（自主制作公演、人材育成事業等）の企画及び制作
○施設提供に関わる申請受付や利用調整
○施設利用者との打合せ
○施設利用者への対応
○レセプショニストの管理
○調査研究
○情報事業の企画及び実施
○自主事業の報告及び評価
○地域との連携におけるネットワーク
○チケットセールス（団体営業等）
○チケット管理（配券、販売状況管理等）
○提携事業や特定貸館利用者の開拓
○外部資金の調達及び調整
○会員組織の運営
○広報資料・広報誌の作成
○報道マスコミ対応
○WEB サイトの企画・運用　等

■舞台技術部門

舞台技術部門では、各ホールの舞台設備の管理運用を担うほか、事業実施での技術的な業務を担当します。積極的に創造・発信する事業を展開する施設であり、また、文化芸術活動の支援を行う施設として、舞台技術業務等に精通した職員を配置します。複数の建物内にホールを整備するため、各ホールに適正な人員を配置することが必要です。

また、近年では映像利用をする事業も拡大する傾向にあるため、映像関係の技術業務への対応も想定します。

【主な業務内容（想定）】

〇自主事業（公演）における技術マネジメント及び技術業務
〇技術部門職員のスケジュール調整
〇施設利用に関するスケジュール調整
〇舞台技術関係業務の管理
〇利用希望者からの相談対応　等
〇舞台設備（舞台機構、舞台照明、舞台音響）の日常的管理
〇舞台施設の維持管理（各ホール、練習室等）
〇人材育成、貸館事業における立ち会いや助言

（３）　収支計画の考え方

新施設の運営に当たっては、神戸、三宮周辺地域のまちづくりに寄与し、都市イメージの向上を図るための施設に対して、文化を活かしたまちづくりへの文化的投資として、神戸市の経費負担が必要となります。

ただし、継続性をもって事業や活動を安定的に行うために、使用料収入や事業による収入割合を高めることに努めるとともに、様々な収入確保の可能性について検討し、市の負担を押さえていくことを検討していきます。

【劇場、音楽堂等で想定される収支項目】

■収　入

- 使用料収入
- 事業収入（入場料、事業参加費、事業への助成金、協賛金など）
- その他（自動販売機、公衆電話など目的外使用等による収入など）
- 市からの収入（指定管理者制度導入の場合は指定管理料）

■支　出

- 事業費
- 人件費
- 維持管理費

現在、全国各地の劇場、音楽堂等では、多方面からの収入を確保することで、安定的な管理運営を行うことを目指し、設置自治体だけに寄らない収入確保の方策が検討されています。

【収入確保の事例】

- 賛助会員制度
- 寄付制度
- 「ふるさと納税」の特定目的での活用
- ネーミングライツ（建物全体、各ホール、練習室等）
- ネーミングライツ（客席椅子、階段のステップ等）など

※下線部：本日特に議論頂きたい事項

４．施設計画

（１）　基本性能の整理

新･神戸文化ホールの整備と中央区の新たな文化施設のホール機能の整備を同時に進めることで効率的・効果的な文化施設の整備を進めていきます。

バスターミナル内に大ホールと中央区の新たな文化施設のホール機能を整備することで、国際コンクールや全国大会等にも対応できるようにします。

また、それぞれのホールが複合施設に整備されることから、他の施設計画と調整しながら、それぞれに十分な搬入動線を確保していきます。

１）新・神戸文化ホールとして整備する機能

①大ホール機能

・客席数 1,500 席以上
・プロセニアム形式を基本とする舞台
・奈落（床機構設備については別途検討）
・可動型音響反射板を備え、生音を活かした音楽利用から舞台芸術、集会利用にも対応
・前舞台としても活用できるオーケストラピット
・多層バルコニー客席

② 中ホール機能

・客席数 700 席～900 席程度
・音楽専用ホール
・多層バルコニー客席

２）中央区の新たな文化施設として整備するホール機能

・客席数 500 席程度
・プロセニアム形式を基本とする舞台
・奈落（床機構設備については別途検討）
・可動型音響反射板を備え、生音を活かした音楽利用から舞台芸術、集会利用にも対応

３）ホールに共通した楽屋機能

・出演者がリラックスできるような空間
・ホールとの導線

４）その他に新・神戸文化ホールとして整備が求められる機能

① 創造支援機能

・リハーサル室、練習室の充実及び各ホール等と連携した柔軟な運用
・先進事例を踏まえ、リハーサル室、練習室のうち、必要に応じて小規模公演な

どが行える仕様を検討する
・リハーサル室、練習室などの活動を支える諸室（楽器庫、譜面庫、大道具製作室、衣裳室など）
・創造支援活動を支える専門スタッフの控室、打合せ室、更衣室など
・自主事業の創造に優先的に利用できる大型練習室の確保
・利用団体・個人が相互に交流できる交流サロン

② 交流機能
・情報ラウンジ（併設予定の図書館との連携も検討）
・飲食ラウンジ
・ホワイエ　など

③ 管理機能
・事務室、応接室、打合せ室、倉庫等
・警備員室
・機械室　など

（２）　主たる機能諸室の検討・整理

① 大ホール機能

大ホールは、現・神戸文化ホール大ホールが担ってきた機能を基本的に継承するとともに、これからの新・神戸文化ホールに求められる役割を果たすことを目指します。

また、兵庫県立文化センターKOBELCO大ホール(2,000席)や神戸国際会館こくさいホール（2,022席）などとの役割分担にも配慮しつつ、劇場規模及び機能を整備していきます。

《客席》
・客席数：1,500席以上
・バルコニー客席の検討
・適切な位置にロビー・ホワイエを計画し、誰もが支障なく客席空間の各所にアクセスできる動線を確保し、必要に応じてエスカレータやエレベータを適宜配置する
・健常者だけでなく車椅子利用者や高齢者、障がい者、子供や妊娠されている方にとっても望ましい鑑賞条件を備える
・難聴者や視覚障害のある方でも舞台での催物を楽しみ、認識するための装置を整備する
・<u>客席の配置、椅子の構造</u>
・1階客席の最前部は客席ワゴンとし、オーケストラピット使用時には客席下部に格納できる構造とする

・残響時間等、音響について
・内装デザイン

《舞台》
・プロセニアム開口幅（○m程度）
・舞台の大きさ（○m×○m程度）
・舞台機構、舞台照明・舞台音響設備の操作について
・搬入導線について
・奈落について

《舞台技術諸室》
・調光操作室、音響調整室（アンプ室）、投影室、投光室などの設置について
・舞台音響設備備品庫、舞台照明設備備品庫、映像施設備品庫などの設置について

《舞台裏諸室》
・舞台技術スタッフ控室、楽器庫、その他備品庫（舞台照明、舞台音響、大道具他）及び、ピアノ庫や備品を格納するための倉庫等の設置について

《楽屋》
・楽屋の規模や配置、部屋数、設備（外光の取り入れ等含）について
・搬入動線について

《ホワイエ》
・大ホールホワイエは、客席数に相応しい広さを備えるとともに、各階の客席数に応じた適切な広さを備える計画とする
・ホワイエは、もぎり前の共通ロビー等と円滑につながる構造とし、客席数に相応しいもぎり台を設置するスペースを確保する
・ホワイエには、観客用トイレを各階の客席数のバランスに応じた数計画する
・飲食スペースの設置について
・トイレについて
・他施設とのつながりについて

《搬入口》
・大ホールは、大型の楽器や大道具などの搬出入が想定されることから、一時に 11 トンクラスでガルウイング仕様のトラックが同時に 2 台荷下ろしできる搬出入口と 2 台のトラックの側面と後方に荷下ろしができるローディングデッキ（レベル差１m程度）を設ける。

・ローディングデッキから搬入用の大型エレベータ（搬入が可能な大道具幅 21 尺×6 尺以上）まで、安全かつ円滑に搬入物を移動できるように計画する。

② 中ホール機能

中ホールは、現・神戸文化ホールには備えられていなかった機能としてクラシック音楽の生音の響きを活かせる特徴ある音楽専用ホールとして整備します。さらにこのホールは、神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団がレジデントするホールとして、これからの神戸の音楽文化振興及び関西地区の音楽芸術拠点として機能していくことを目指します。

また、先行して整備されている兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール（417 席）や神戸新聞社松方ホール(706 席)などとの役割分担も考慮します。

《客席》

・客席数：700～900 席程度
・バルコニー客席の検討
・各種動線の確保
・バリアフリー、ユニバーサルデザイン等への配慮
・舞台及び客席の配置、椅子の構造について
・内装デザインについて

《舞台》

・舞台の大きさ（○m×○m程度）
・搬入導線について（○ｔ×○台程度）
・舞台照明や反射板等の配置について

《舞台技術諸室》

・調光操作室、音響調整室（アンプ室）、投影室、投光室などの設置について
・舞台音響設備備品庫、舞台照明設備備品庫、映像施設備品庫などの設置について

《舞台裏諸室》

・舞台技術スタッフ控室、楽器庫、その他備品庫（舞台照明、舞台音響、大道具他）及びピアノ庫や備品を収納するための倉庫等の設置について

《楽屋》

・楽屋の規模や配置、部屋数、設備等について
・搬入動線について

《ホワイエ》

・規模、構造について
・飲食スペースの設置について
・トイレについて
・他施設とのつながりについて

《搬入口》

・搬入用エレベーター等の規模や仕様について

③ 中央区の新たな文化施設として整備するホール機能

中央区の新たな文化施設として整備するホールは、多目的とし、様々なジャンルの文化活動の発表の場として幅広いニーズに対応できるようにします。
新・神戸文化ホールの大ホール機能と一体的な運用を行うことで、効果的・効率的な運用が期待されます。

《客席》

・客席数：500 席程度
・バルコニー客席の検討
・大ホールとの導線など各種導線の確保
・バリアフリー、ユニバーサルデザイン等への配慮
・客席の配置、椅子の構造について
・内装デザインについて

《舞台》

・舞台の大きさについて（○m×○m程度）
・搬入動線について（○ｔ×○台程度）
・舞台照明や反射板等の配置について

《舞台技術諸室》

・調光操作室、音響調整室（アンプ室）、投影室、投光室などの設置について
・舞台音響設備備品庫、舞台照明設備備品庫、映像施設備品庫などの設置について

《舞台裏諸室》

・舞台技術スタッフ控室、楽器庫、その他備品庫（舞台照明、舞台音響、大道具他）及びピアノ庫や備品を収納するための倉庫等の設置について

《楽屋》

・楽屋の規模や配置、部屋数、設備等について
・搬入動線について

《ホワイエ》
・規模、構造について
・飲食スペースの設置について
・トイレについて
・他施設とのつながりについて

《搬入口》
・搬入用エレベーター等の規模や仕様について

④ 創造支援機能・交流機能

創造支援機能として新・神戸文化ホールが担う活動や事業を支える基盤機能を整備します。具体的な諸室としては、リハーサル室や練習室、スタジオなど本番前のウォーミングアップから日常的な練習、そして舞台芸術作品や音楽芸術作品などを創造するための必要な諸室を整備します。先行事例等を参考に、規模の大きなリハーサル室は、練習や創造活動だけでなく、単独の興行場（有料の公演を行う場）として利用されることも検討します。

さらに、リハーサル室、練習室などでの活動を支える楽器庫、大道具製作室、倉庫などの整備を検討します。

さらに、そこでの活動や事業を支える諸室として舞台技術者及び制作者などの控室として専門スタッフ室、練習利用する方々のための更衣室・シャワー室、そして打合せ室、さらに創造支援諸室を利用する市民が交流できる情報ラウンジ（飲食可）などの整備を検討します。

これら機能所室のゾーニングについても適宜検討していきます。

《リハーサル室》
・規模、配置、部屋数、設備について

（３） 留意事項

５．整備手法及び整備予定地

①雲井通５・６丁目再整備

②庁舎２号館

６．整備スケジュール（予定）

５整備手法及び整備予定地（１）、（２）の整備スケジュールと調整しながら、スケジュールを記載します。

７．今後の検討課題

施設整備に向けて、今後検討が必要な課題として、以下があげられます。

- 現・神戸文化ホールからの継続性への考慮

別の敷地に建替えることから、新しい施設の開館まで現施設を活用することが可能です。現施設が行っている事業などの継続性にも考慮し、また施設利用者に対してはスムースな移行ができるように考慮します。

- ホール間の連携ができる制度の検討

新しく整備するホールそれぞれが連携できる制度の構築について検討をしていきます。

- 事業内容・管理運営の検討

本基本計画で定めた展開する事業や管理運営の基本的な方向性を基に、今後は、具体的な事業内容や、どのように施設の管理運営を行っていくか、また、それらを実現するための人員配置計画など具体的な検討を進めていきます。

- 市内他施設との連携

本市では、各区に区民センターまたは勤労市民センターを１つずつ設置する「1区１区民センターの基準」に基づき整備を行ってきました。各区の施設は地域に密着した活動の場として市民に利用されていますが、新・神戸文化ホールはそれらの施設とも連携した事業展開を行い、神戸の文化発信を担うことが求められています。さまざまな芸術文化の活動を通じて、神戸の文化を発信させていくための施設連携のあり方も検討します。

● 整備推進体制

ホール整備に関しては、民間事業者等との協働の中で整備していく計画となっているため、神戸市においても整備事業の推進体制を整えていくことが非常に重要となります。

芸術文化事業、文化施設運営など、文化施設としての専門的な知見のほかに、市街地再開発、民間業者の活用などにも対応できる推進体制を早期から整えることが望まれます。この推進体制には、開館後の実務を担う人材に早くから関わってもらうことで、今後の設計・施工業務等の施設整備業務、また、文化施設の運営を円滑に推進することが可能になります。

● 先行したソフト事業実施体制

開館前の段階から、地域との交流や意見交換のできる場を常設し、市民ボランティアや支援者・サポーター・協力者などが集まり協働する機会の促進や既存インフラを活用した、街を一体的に巻き込んだイベントなどが実施できる体制の整備を検討します。

開館後の管理運営を担う組織を早期に確定させ、その組織を中核として整備を推進していきます。